下呂農林事務所の普及活動状況　　令和５年11月30日

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農福連携　下呂地域連携会議・現地視察を開催

【情報交換の様子】

下呂地域では、トマトの新規就農者の労働力補完の手段の１つとして、市内の福祉事業所との連携を進めており、今年度で４年目となります。

これまで継続してきた福祉事業所利用者はトマトの管理作業のスキルが高まり、新規就農者の農業経営において必要な戦力となっていますが、全産業全体での人手不足や福祉事業所利用者の都合により、今年度はトマト農家と福祉事業所利用者とのマッチングは１例のみとなっています。

このような状況の中、11月16日、農福連携下呂地域連携会議の構成員であるＪＡ、下呂市、県農業経営課、農業普及課が集まり、情報交換と障がい者雇用をしている農業法人の視察を行いました。

情報交換では、まず農業普及課からトマトの農福連携の状況を説明した後、ＪＡから関連施設における障がい者の雇用状況について情報提供がありました。また、農業法人の社長からは、障がい者雇用の現状や配慮していることなどの話しがあり、中でも「障がい者の方もとてもまじめに働いていただける。頼りになります。感謝を言葉で伝えることが大事。２、３年で戦力になっている。」との話しがとても印象的でした。

情報交換後は、夏秋トマトや椎茸栽培を行っている農業法人の現場で、障がい者の就労状況などの確認を行いました。

今後、農業普及課では、関係機関・団体等との連携を図るとともに、これまでの福祉事業所との関係を維持しつつ、農福連携の取り組みを進めていきます。　（地域支援係・熊澤良介）

■トマト就農研修生　青年等就農計画認定審査会を開催

【就農計画認定審査会の様子】

今年度、下呂地域では７名の就農希望者があすなろ農業塾長の下で農業研修を受けています。この内５名は２年間の研修を修了し、令和６年４月から就農する予定です。

11月21日には、下呂地域担い手育成総合支援協議会の青年等就農計画認定審査会が開催され、あすなろ農業塾長、農業委員会、ＪＡ、下呂市、農林事務所が就農計画の審査を行いました。

審査会では、各研修生から就農計画を説明した後、審査員から就農計画の詳細や就農後の目標など幅広い質問がありましたが、各研修生は自身の思いをしっかりと説明でき、新規就農者となる強い意気込みを感じる審査会となりました。

農業普及課では、昨年12月の就農計画の説明会以降、就農計画の作成や計画達成に必要な資金確保などについて、下呂市やＪＡなどと連携し支援をしてきました。来春の就農後も引き続き下呂市、ＪＡと連携し、新規就農者の早期営農定着を支援していきます。　（地域支援係・熊澤良介）

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲新品種　小中高生に対する米の試食アンケートを実施

【試食アンケートに取組む高校生】

下呂市萩原町の丹精米生産組合では、良食味米のコシヒカリを中心に栽培していますが、近年の温暖化により米の品質低下などが課題となっています。

そうした中、農業普及課では、令和４年度から高温下でも米の品質低下が少ない２品種の試験を行っています。

11 月 24 日、27 日、30 日には、今年収穫された米（２品種とコシヒカリ）について、下呂市内の３校の小中高生と先生計 107 名を対象に試食アンケートを実施しました。

まず、農業普及課から新品種の試験を行っている背景や目的などを説明した後、お寿司のシャリ大のお米３品種を食べてもらい、粘りの強さや甘み、一番美味しかったものなどの評価をしてもらいました。

参加者した児童生徒からは「どのお米も美味しい。品種により甘みや粘りが違うのが分かった。いつも食べている米より美味しかった。」などの意見があり、有意義な試食会となりました。

今後、農業普及課では、試食アンケート結果を取りまとめるとともに、３品種の収量や品質、現地適応性などの結果を関係者とともに検討し、現地に普及していく品種を決定していく予定です。

（地域支援係・田中良憲）